洞窟の中の〈私〉、洞窟に映る〈世界〉ーポストメディア時代を考えるー

日本学術会議哲学委員会公開シンポジウム「分断化する社会の中で対話は可能か：ポスト・ソーシャルメディア時代の社会構築 」

2025.10.21 於立教大学池袋キャンパス11号館地下AB01教室

学習院大学名誉教授　遠藤薫

1

自己紹介

- 東京大学教養学部卒業、東京工業大学大学院修了、博士（学術）
- 専門：理論社会学、社会情報学、計算社会科学、メディア論
- 日本学術会議元会員（第一部）、現在は連携会員
- 日本社会学会元常務理事
- 日本社会情報学会元会長
- 計算社会学会会長
- その他

2

最近の主な著書

- 『廃墟で歌う天使ーベンヤミン『複製技術時代の芸術作品』を読み直す』（2016，現代書館）
- 『ロボットが家にきたら…ー人間とAIの未来』（2018，岩波書店）
- 『ソーシャルメディアと公共性』（2018，東京大学出版会）
- 『〈猫〉の社会学』（2022，勁草書房）
- 『災禍の時代の社会学』（2023，東京大学出版会）
- 『現代日本の〈国家意識〉とアジア』（2024，勁草書房）
- 『ゾンビと幽霊と偽王たち（仮）』（東京大学出版会、近刊）

洞窟の比喩

プラトン『国家』第７章

- 人々は暗い洞窟の奥に鎖でつながれていて、背後にある火によって壁に映る影だけを見ている。
- 彼らは影を「現実そのもの」と誤認して生きる。
- ある者が解放され、洞窟の外へ出て、初めて真の世界（イデア界）を知る。
- しかし洞窟へ戻って真実を伝えようとしても、他の囚人は影以外を信じようとしない。

現代版（遠藤）

- 人々は暗い洞窟の奥の独房に鎖でつながれていて、背後にある火によって壁に映る影だけを見ている。
- 彼らは影を「現実そのもの」と誤認して生きる。
- しかも彼らは一人ずつ独房に閉じ込められているので、彼らが見る「影」は他者と共有されることのない、個人的な「影」である。
- 彼らは誰一人独房の外にも、洞窟の外にも出ることはない。

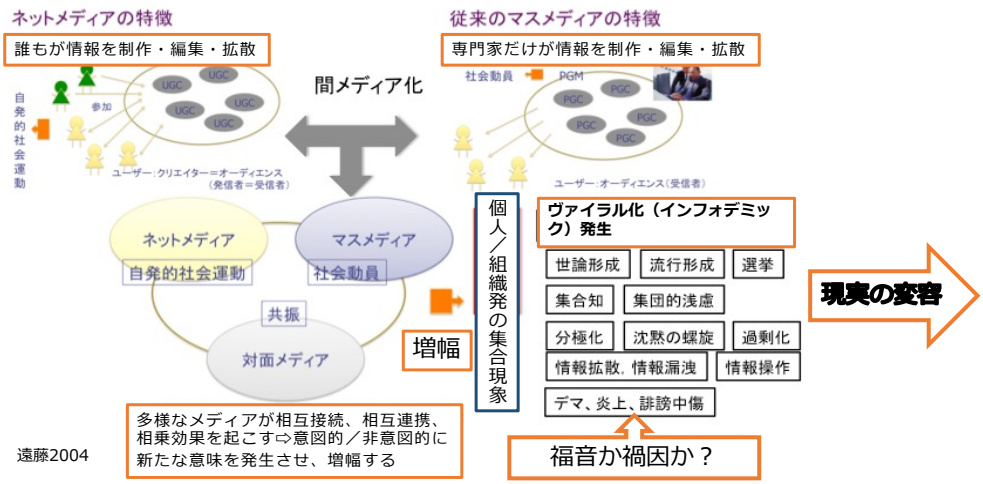
〈ポストメディア〉という状況

・「テレビ、通信サービス、情報処理の接合」が急速に進展することで、「個人が集合的に再適合化され、情報機械やコミュニケーション機械、知性、芸術、文化の機械がインタラクティヴに使用され」、「あらゆる領域において、非物質的な現実性のこうした生産が、物質的連関やサービスの生産に対して前景化」する (F.Guattari 1990:76)

・ハイパーテキスト、グループウェア、相互作用的なマルチメディア、ヴァーチャルリアリティ、人工的知性あるいは人工生命のプログラム、動的イデオグラフイー、デジタル・シミュレーション装置と相互作用的な情報システムを携えながら、集合的諸知性体は突然変異的な諸々の記号論を探求する（P .Levi 1994=2015:227−8)

5

ポストメディア状況の間メディア性



6

現実の変容

つながりっぱなしの日常

ほとんどあらゆる行動がメディアを介して行われ、その記録はデータ化され、アーカイブ化（記録）される。
⇨人間は、ペルソナ（人格）のデータ入力装置？

メディア化される社会関係

他者との関係性もメディアを介して構築、強化、維持
⇩
他者は、リアルな実在ではなく、しばしば意図的に創り出された「非実在存在」（亡霊）
↕
自分自身も、しばしば意図的に創り出された「非実在存在」（亡霊）
⇨亡霊たちの交友は、データとなって痕跡を残す

プラットフォーム企業：Google、Apple、Facebook（Mata）、AMAZON、Microsoftなど、ネット・サービスを提供する企業

現実の変容
参加型文化の台頭

参加型文化（Convergence Culture / Participatory Culture)≒“推し活”文化

①オーディエンスが自発的・献身的に、コンテンツの流通・拡散・二次創作・ファンダム形成などに関与する。（推し活）
②コンテンツが間メディア的に流通・拡散・消費される
③多数のメディア・ビジネスが関与する

⇕

ファンダム（推し活）マーケティング

Ex. BTSのファンダム

BTSの公式ファンクラブ「ARMY」は、BTSと共に成長し、世界中に広がる巨大なファンダムを形成している。2025年にはARMYに焦点を当てたドキュメンタリー映画『BTS ARMY：FOREVER WE ARE YOUNG』も公開された。

事例から考える

朝井リョウ『イン・ザ・メガチャーチ』
（2025.9 日本経済新聞出版）

- 視差小説：3つの視点
  - 久保田 慶彦（47歳・男性）：レコード会社勤務。離婚し、仕事への情熱も失いかけていたが、アイドルのファンダム経済構築チームに加わることで、再び「居場所」を得たと感じるが…。（仕掛ける側）
  - 武藤 澄香（19歳・女性）：大学生。留学を志していたが、内向的な性格ゆえに大学で居場所を見つけられず、アイドルに強い共感を覚え、推し活にのめり込む。（のめり込む側）
  - 隅川 絢子（35歳・女性）：派遣社員。かつて舞台俳優の熱心なファンとして活動していたが、ある報道をきっかけにその熱狂が陰謀論へと向かう。（のめり込んでいた側／その先）

9

事例から考える

朝井リョウ『イン・ザ・メガチャーチ』
（2025.9 日本経済新聞出版）

- 慶彦、澄香、絢子はいずれも「居場所がない」という感覚に苛まれている。「居場所がない」という感覚は、社会の中に身体的に「現前」していても、その存在が誰にも承認されず、意味づけられないため、社会の主流から透過（透明化）され、不在に等しくなる⇨亡霊化
- 「現前」の希求（居場所／主体性の復活をめざして）
  - ⇨推し活（不在の“物語”＝メガチャーチ）への熱狂（憑依）
  - ⇨陰謀論（排他的“物語”、亡霊的厳命“今こそ目覚め、行動せよ”）
  - ⇨ファンダム経済（メガチャーチの“物語”的構築⇨収益化）
- ⇩
- 亡霊に対する責任＝応答可能性は果たされない（破滅へ向かう）

- 「責任とは、もっとも信念に満ち、もっとも説得的な意見【ドクサ】によれば、応答すること、すなわち他者と法の前で他者に応答することであり、そして可能ならば、みずから公的に、みずからの意思によって、みずからの目的を持って、そして責任あるとみなされる動作主の名において応答することにほかならない。」（デリダ『死を与える』p.59）
- 「責任の行使は転向と背教の危険をもつねにはらんでいる。伝統や権威や正統性や規則や教義に対して、離反や創意という破壊を行なわないような責任はないのだ。」（同前 p.61）

10

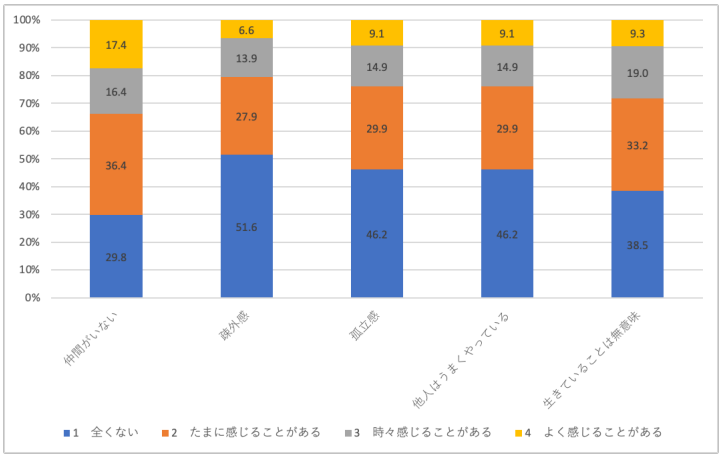
“メガチャーチ”とは？

- 定期的に礼拝に出席する人の数が2000人を超えるキリスト教プロテスタントの教会。
- 特に宗教に無関心な若年層から多く支持されており、福音派が65%を占める。
- カリスマ牧師により運営され、全米でおよそ1300以上のメガ・チャーチが存在し、上位50の教会の平均出席信徒数は1万人を超える。
- 大規模なライブ仕立ての礼拝（ワーシップ）が行われることでも有名であり、さながらコンサートホール並みの音響設備と照明設備を備えている。
- （ハートフォード宗教研究所、その他）
- ⇩
- メガチャーチ・マーケティング≒ファンダム・マーケティング

ヒューストンのレイクウッド教会（cc 3.0）

シドニーのヒルソング教会(Matt Malone)

多くの人が「居場所がない」と感じている



遠藤調査　2022年2月　N=2132

居場所の喪失の背景にある社会変動

- 後期近代（A. ギデンス）
  - 自明の前提でありそれ自体が目標となる伝統的共同体の解体
  - 個人は共同体（地縁・血縁）から脱埋込され自己のアイデンティティを再帰的に創出しなければならない
  - ⇨絶え間ない自己選択の連続⇨失敗すれば自己責任という孤独
  - 自明の親密圏からの脱埋込（居場所の喪失）
  - ⇨「純粋な関係」（ただ相互の愛によってのみ維持される関係）の希求
  - ⇨自己の“物語”化の要請と絶えざる不安

問いかけられているのは？

- 後期近代において、居場所（現前の感覚）を失った者たちは、ポストメディア上の非在の他者（亡霊：アイドル、インフルエンサー、匿名の他者など）との「純粋な関係性」（推し活）に居場所を見出そうとする。
- しかし、特定の他者に対する愛着（推し活）は、他者への排斥（陰謀論）と表裏である。
- そしてポストメディア状況においては、「純粋な関係性」もデータ化／経済化され、資本主義の中に回収される。
- それは、ある種の救いか？それとも陥穽か？

⚠️私たちは

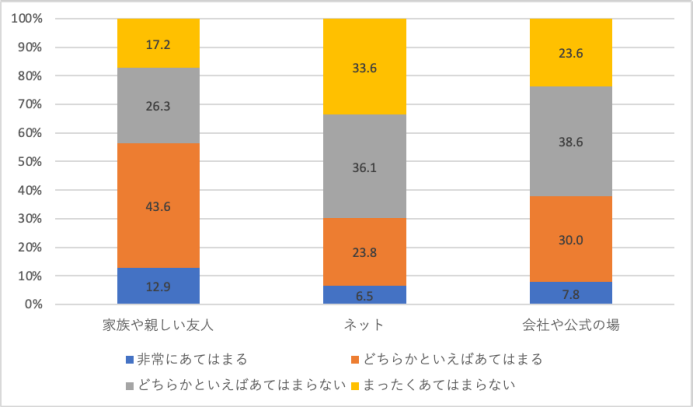
- 〈ポストメディア〉の外部に出ることはできない。
- したがって、状況について、外部から絶対的な判定をくだすことはできない。
- それでも私たちは〈善きほう〉を切実に願っている

私たちが考えるべきことは？

- 私たちを取り巻く現実／ポストメディア状況を、的確に理解すること。ただし、私たち自身、その現実／ポストメディア状況の内部に閉じ込められていることを理解すること。
- そのうえで、現前する他者／現前しない他者（亡霊）への応答を試みること。亡霊の中には、仮想的な他者、死者だけでなく、未来の生者も含まれる。

実際には、私たちは応答にとても臆病

あなたは次のような場で自分の意見をはっきりいうことができますか？



遠藤実施「ライフスタイルに関する調査」2019.3　N＝5000

17

「無条件の歓待」は可能か？

- デリダは『友愛のポリティクス』において、「友愛」がしばしば「排他」と表裏であることを指摘し、「似た者同士の連帯」から「異質な他者との共存」へと、政治と友情のあり方をシフトさせようとした：「無条件の歓待」
- しかし、「私たちは、血縁や国籍という『兄弟の論理』を超えて、自分を脅かすかもしれない『全くの他者』を友として迎えることができるか？」（デリダ）

18

私たちはもっとテキトーに応答し合おう

- 私たちは、「純粋な関係」を求めすぎてはいないか？
- 私たちは、 「純粋な関係」の裏切りを恐れすぎて、ますます狭い空間に閉じこもっていないか？
- 裏切られても、それはあなたのせいではない！
- 間違ったら直せばいい。
- 私も他者も「空虚な主体（亡霊）」である。
- 亡霊同士、緩やかに繋がり、
- テキトーに応答しあってみませんか？

19

主な参考文献

- 朝井リョウ，2025，『イン・サ・メカチャーチ』日本経済新聞出版
- Bauman, Z., 2004, WASTED LIVES, Polity Press.（中島道男訳，2007，『廃棄された生』昭和堂）
- Coulombe, Maxime, 2012, Petite Philosophie du zombie.（武田宙也・福II安佐子訳，2019，『ゾンビの小哲学：ホラーを通じていかに思考するか』人文書院）
- Derrida, Jacques, 1993, Spectres de Marx, Editions Galilée（増田一夫訳，2007，『マルクスの亡霊たち』法政大学出版局）
- Derrida, Jacques, 1994, Politiques de l'amitié suivi de L'oreille de Heidegger. Galilée. （鵜飼哲他訳，2003，『友愛のポリティックス　１＆２』みすず書房）
- Derrida, Jacques. 1995 , Archive Fever. （福本修訳，2010，『アーカイヴの病　フロイトの印象』法政大学出版局）
- 遠藤薫（編著），2022，『災禍の時代の社会学』東京大学出版会
- 遠藤薫，2025，「語りえぬ〈他者〉との社会学をめざして―人新世と多様な価値の背反する世界で」西條辰義・野宮大志郎編，『フューチャーデザインと社会学』勁草書房
- 遠藤薫，近刊，「猫をめぐる生権力／死権力」『学習院大学法学会雑誌』（印刷中）
- 遠藤薫，近刊，『ゾンビと幽霊と偽王たち―ポストメディア時代の孤独と託生（仮）』東京大学出版会
- Giddens, A., 1991, Modernity and Self-Identity, Cambridge: Polity Press.（秋吉美都他訳，2005，『モダニティと自己アイデンティティー後期近代における自己と社会』ハーベスト社）
- Guattari, F. （1990=2013）"Towards a Post-Media Era", in Provocative Alloys: A Post-Media Anthology, PML Books: Leuphana. （門林岳史訳「ポストメディア時代に向けて」『表象』2014 年 8 号，月曜社　76-77
- Jenkins, Henry, 2006, Convergence Culture: Where Old and New Media Collide, New York University Press.（渡部宏樹他訳，2021，『コンヴァージェンス・カルチャーーファンとメディアがつくる参加型文化』晶文社）
- Krauss, Rosalind E., 2000, A Voyage on the North Sea: Art in the Age of the Post-Medium Condition, Thames and Hudson.（星野太訳，2014，「メディウムの再発明」『表象08　ポストメディウム映像のゆくえ』月曜社）.

20